

# ラグビー部

設 立	1950 年 4 月
部 長	大村 亮(機械工学科)
現在の部員数	60 人(2013 年 3 月現在)
OB/OG 会代表者	安西 祐一郎
OB/OG 会会員数	570 人
部 誌	KERC Vol.1、50 年誌 はたぐも、他
URL	<a href="http://www.ker-rugby.org/">http://www.ker-rugby.org/</a>

## はじめに

慶應義塾大学理工学部の前身藤原工業大学予科にも、今と同じ名前のラグビー部があった。1941 年 12 月に刊行の「藤原工業大学豫科誌創刊號」によれば、1940 年春頃に設立準備が始まったとある。翌年 11 月に刊行の第貳號には、藤原工大予科ラグビー部の戦績がある。1941 年 11 月 23 日には、最初の試合を府立高校と行った。慈恵医大や東京美術学校との試合も記録されている。

写真は『慶應義塾大学理工学部 5 期生卒業 50 周年記念誌』に掲載のラグビー部員である。5 期生の入学した 1943 年 4 月 1 日に、先輩たちが教室で運動部の紹介などを行っている。しかし、同年 10 月には大学生への徴兵猶予が停止され、5 期生は神宮競技場の観覧席から、雨の中、銃を担いで行進する出征学徒を見送った。10 月末には農家への勤労働員、11 月には習志野での野営訓練と、授業以外のことが取り入れられてゆく。2 年に進級した 1944 年 7 月から翌年の 3 月までは豊川海軍工廠での動員があり、学校での勉学ができなくなる。そして 1945 年 4 月の日吉空襲で校舎が失わ



藤原工大予科ラグビー部「慶應義塾大学理工学部 5 期生卒業 50 周年記念誌」より

れた。したがって、豫科誌第三号以降は発行されていない。どの運動部も活動ができなくなる。

5 期生の卒業 50 周年記念誌にある、日吉のグラウンドで撮影されたラグビー部員の写真は、戦時中の束の間の平穏な学生生活を表している。今、ラグビー部の部歌になっている「惜春の譜」(通称はたぐも)は、藤原工大予科第 1 回記念祭で初めて歌われ、先輩たちから連綿と歌い続けられてきた逍遥歌である。

ラグビー部も他の部と同様、小金井に安住の地を見つけた後の 1950 年に、工学部体育会ラグビー部として新たに再興されることになる。野球やバレーボールと同様に、ラグビーのクラス対抗戦では、ラグビー部員が活躍した。1959 年には日本ラグビーフットボール協会に登録申請を済ませ、全国新制大学ラグビーフットボール大会(現：全国地区対抗大学大会の前身)に、この年から 1969 年まで出場している。

1960 年から始まった関東理工系大学リーグには第 1 回大会から 2013 年現在まで参加している。2000 年からは関東学生クラブ選手権大会(主催：関東ラグビーフットボール協会)にも出場した。



1954 年クラス対抗ラグビー戦の後の集合写真



対東京農工大学戦の前に 1955年1月



合宿中の集合写真 1958年夏

## 黎明期 創部当時

1950年4月、11期、13期を中心に工学部ラグビー部を再興した。部長には機械工学科の渡部一郎教授が就任した(1950～1955年)。対外試合は東京農工大学と東京学芸大学の2試合であった。しかし1953年頃からはメンバー不足のため休部状態になってしまった。このころクラス対抗競技にラグビーが追加され、1959年まで実施された。

1955年、16M 芦澤直仁、18E 成願恒雄などが中心になりラグビー部を復活した。部長にはサッカー部と兼任であった渡部一郎教授にかわり、久野洋(当時応用化学科助教授、のち塾長)が就任した(任期1955～1973年)。

創立から80年以上となり(2013年現在)、古くから活動を続けている塾内クラブチーム「BYB」、「JSKS」や立教大学クラブチーム「芙蓉クラブ」、早稲田大学クラブチーム「GW」と対戦している。

1959年には関東ラグビーフットボール協会に登録した。

### 施設の整備

このころ、グラウンドをはじめとする施設の整備も進んだ。小金井キャンパスは横河電機の工場あとで、溝の口から移転してきたときには既にグラウンドも敷地内にあった。低くかなり傷んではいたが、ラグビーポールもあった。部員でグラウンド整備を済ませ、ポールも高いものに取り替えた。

当時グラウンドは常にサッカー部と競合状態にあり、試合前はポールを抜いたり立てたりと一仕

事であった。またグラウンドを再測量したおり、形状が南側に広い台形であることがわかり、ラインを引き直した。

浴室もあったが、水しか出なかった。太陽熱パネルを取り付けるなど、工学部らしい工夫もしたが、十分な湯量を確保するには至らず、不足は廃材をくべて沸かした。風呂場の改築のための資金を、1957年暮れデパートのお歳暮の配達アルバイトで調達し、主将が用度(塾)と折衝し、ボイラー設備の整った浴室にグレードアップされた。この施設は主にラグビー部が使用することができ、小金井キャンパスから矢上キャンパスに移転するまで、部員は長い間恩恵に浴した。

部員が増え、体制が整い、施設も充実してきた頃、当初小金井で始めた合宿も静岡県の草薙(現静岡県草薙総合運動場)や山梨県の山中湖など遠征することができるようになった。

### KERの誕生

1961年にはOBチームも神奈川県ラグビーフットボール協会に登録した。このときクラブチームとしてクラブ名を登録するにあたり、慶應義塾大学工学部ラグビー部OBチームではあまり長すぎるといふことで、“Keio Engineering Ruggers”略称“KER”として登録した。初めて“KER”の名称が登場した瞬間である。

## 小金井時代

全国新制大学ラグビーフットボール大会  
1959年日本ラグビーフットボール協会に登録

申請を済ませ「全国新制大学ラグビーフットボール大会」に、また1960年には、この年から始まることになった「関東理工系大学リーグ戦」に相次いで参加することとなった。

全国新制大学ラグビーフットボール大会では、1959年に学習院大学などと、1960年には明治学院大学などと戦っている。特に1960年には(関東地区の)準決勝で明治学院大学との対戦には惜敗したものの、この年の(関東地区)優勝校が明治学院大学であったことを考えると、そのころのラグビー部の実力が想像できる。

全国新制大学ラグビーフットボール大会は、全国大学選手権大会よりも歴史は古く1950年度に第1回大会が行われている。現在も「全国地区対抗大学大会」と名称を変えて毎年1月初旬に、名古屋・瑞穂ラグビー場を舞台に熱戦が展開される。大学選手権の出場権を得なかったチームによる“もうひとつの全国大会”という色合いが強くなり、注目度は低かったが、「正月の瑞穂」も多くの大学生にとって目標とする舞台であった。

しかし1969年 関東ラグビーフットボール協会から1つの大学(慶應義塾大学)に2つの代表(出場権：関東大学ラグビーリーグ戦と全国地区対抗大学大会)は望ましくないのが、工学部のチームは全国地区対抗大学大会出場を辞退するよう勧告があり、これに応じ出場を断念することになった。

### 関東理工系大学リーグ

1960年に発足した関東理工系大学リーグの第1回大会参加校は下記の6校で、慶應義塾大学工学部は第3位であった。

- ・慶應義塾大学工学部
- ・千葉工業大学
- ・東京農工大学
- ・東京理科大学
- ・電気通信大学
- ・日本大学理工学部

このうち50年後の2010年、継続して加盟しているのは、慶應義塾大学理工学部、東京理科大学、電気通信大学、日本大学桜工(理工学部)の4校である。この4校を中心にして、2010年に創立50



小金井グランドでのBYB戦 1963年12月7日



38期卒業アルバムより

周年記念事業を実施することになるが、詳細は後述する。

### 部誌の発行

1970年3月、25M 森田、27C 安西、27A 山本が編集委員となって名簿と部誌合冊の小冊子OB会名簿兼KERC会誌「KERC Vol. 1」を創刊した。ラグビー部始まって以来最初のオフィシャルな文書である。

## 矢上移転前後

### 移転前

1969年当時の工学部(現在は理工学部)は1年だけが日吉キャンパスで、2年からは小金井キャンパスでの授業であった。ラグビー部の1年生部員は少なかったが、小金井グランドまで練習に通っており、矢上にグランドができることに希望を抱いていた。

当時の矢上は学内の一部チームが練習に使用していた。現在の矢上グランドに当たるエリアは、下を走る新幹線建設時のコンクリートガラが表

面に露出、大小の小石が散乱して使用されることがなく、空き地のような状態だった。

1969年の工学部入学者は2年まで日吉、3年から矢上の計画だった。校舎の移転と合わせて、グラウンドの移転も計画されていた。

日吉にいた工学部2年のラグビー部員は、1970年に入学した新1年生数人と矢上での練習を始めた。しかし、グラウンド状態が悪くラグビーの練習には不向きだった。そして、このあとグラウンドがしばらく使用不可となり、ラグビー部は多摩川緑地にある麻布学園のグラウンドを借りて練習を続けた。4年生もはるばる小金井から練習に参加した。

### 移転後

1972年春から工学部校舎は矢上に移転し、同時にグラウンドの使用が開始された。当時は、周囲に現在のような高いネットはなく、ラグビーボールはサイドラインを超え、グラウンドを外れてたびたびテニスコートや新幹線側の崖に飛んで行ったが、とにかく校舎の横にある矢上グラウンドで練習ができることで、新入部員が増え、部活動に活気が出てきた。また各部と部室の割当やグラウンドの使用日程の調整等、グラウンド使用開始に当たって話し合いを行い、相互に親睦を図った。現在は無くなっているが、部室エリアには、シャワー室の他にかなり大きな浴槽がある浴室が設置され、小金井に近い設備となっていた(もちろん小金井に比べ格段にきれいだった)。

しかし、本格的なグラウンド施工方法でないために、高台にある矢上では強風により盛り土が飛ばされ、コンクリートガラが露出し、グラウンド状態は悪かった。数年後に再度土木工事施工時の残土を使用して盛り土をしたが、状態はよくなりず、コンクリートガラや大小の石が露出し、グラウンド状態は悪くなっていった。各部は这其中で練習を続けるため、擦傷や破傷風発生(関東ローム層の赤土には破傷風菌がいると言われる)の可能性があった(実際に予防接種をしている部員も多くいた)。その後も、各部は練習終了後にトンボによる整地と合わせて石拾いを行ったが、グラウンドの危険な状態は改善されなかった。また周囲に現在

のような高いネットがないため、グラウンド環境としても不十分な状態であった。

このことが、当時三田クラブで開催されていたラグビー部OBの例会でも話題となり、グラウンドを使用していた部のOB会を中心に大学当局と協議し、寄付により資金を集め、グラウンドの土の入れ替えを行なうことになった。寄付は工学部ラグビー部とサッカー部が協力をして進め、1981年9月に、ラグビー部240万円、サッカー部100万円を納めた。約半年の工事によって完成したグラウンドは見違えるほど安全になり、その後周囲をネットで囲まれた現在のグラウンドに変わった。こうして矢上グラウンドは、理工学部体育会現役学生や学校関係者及び理工学部体育会関係者の努力により、各部の公式戦ができるグラウンドに変貌した。

## 矢上時代

### 発展期

1972年には部創立20周年パーティーが開催された。

また1973年には部長だった久野教授が塾長に就任した。塾長就任のお祝いの会があり、部長は日比野真一助教授(応用化学科)に交代した。

1976年10月、KER初の国際親善試合である対YMCA戦が横浜山手のグラウンドであり、大敗した。

### 新聞 慶應理工ラガーズ創刊と久野先生の還暦祝い



紅白戦。レフリーは故久野洋  
1986年11月16日



OB チーム横浜市クラブチーム大会 1981.11.



関東理工系大学リーグ初優勝 1987.5. 左クリックで「許可」,「ファイルを開く」で動画。



2度目の優勝 1992.5. 左クリックで「許可」、  
「ファイルを開く」で動画。

1981年6月、16M 佐久間、38A 石井、40A 津崎らが中心になって新聞「慶應理工ラガーズ」を創刊した。このあと1985年6月までに創刊号を含み4回発行された。

同じく6月、久野先生還暦祝賀会並びにOB、現役の親睦会を国際文化会館で開催し、先生に背番号60の紅白横縞ジャージを贈った。

### OB チーム横浜市クラブチーム大会優勝

1981年、横浜市クラブチームに参戦していたOBチームは11月に三ツ沢球技場で行われた決勝戦に勝利し、Bリーグで優勝を果たした。

1961年にOBチームが神奈川県ラグビーフットボール協会に登録してから20年後のことである。

### サヨナラ小金井

1986年11月旧小金井キャンパスでラグビー部関係者150名が参加して、「サヨナラ小金井パーティー」が催された。好天の中、紅白戦やバーベキューを楽しみ、思い出を語り合いながら親睦を深めた。

### 悲願の優勝

1987年6月、46M 広瀬剛主将率いるチームが関東理工系大学リーグで優勝した。リーグ戦開始、初出場から27年目。悲願の初優勝であった。

### 部長の交代

1988年、部長の日比野真一教授が定年退職し、後任を白井恒雄教授(応用化学科)に依頼するも、1990年に白井教授が急逝された。後任として安西祐一郎教授(電気工学科)が就任した。

### 関東理工系大学リーグ2度目の優勝

1992年6月、51A 大野朝之主将率いるチームが関東理工系大学リーグ優勝。リーグ戦2度目の優勝であった。

### 創部40周年

1992年6月八重洲富士屋ホテルでKER創立40周年を祝う記念パーティーが開催された。現役チームが直前に関東理工系大学リーグで優勝したことと相まって会場は大いに沸いた。創部40周年と関東理工系大学リーグ2回目の優勝を記念して、CD「VIDEO CD The KER」がはじめから電子化されたメディアで発行された。

### 星出彰彦君が宇宙飛行士候補生に

1999年2月、KER OBである50期機械工学科卒業の星出彰彦君が宇宙飛行士の候補者に選出



ジャージ贈呈 2001年5月



打ち上げを祝うラグビー部のOBと現役  
2008年6月1日



下田グラウンドでの還暦記念試合  
2006年5月

された。訓練を3、4年行い、その後宇宙に飛び立つこととなった。

### 創部50周年ならびに 安西祐一郎君塾長就任

2001年5月、部長の安西祐一郎教授が塾長に選出された。これを祝い創部50周年と併せて祝賀パーティーが催された。塾長に就任する安西に代わり、部長には小茂鳥潤准教授が就任した。

2001年8月4日、帝国ホテル「光の間」においてKER(慶應義塾大学理工学部体育会ラグビー部)創部50周年と安西祐一郎君塾長就任とを祝うパーティーが来賓を含め214名の出席で催された。

最初に芦澤直仁OB会長挨拶と物故者追悼の黙祷があった。関東ラグビーフットボール協会貴島健治理事長の祝辞、慶應義塾大学体育会蹴球部OB会(黒黄会)の青井達也会長による乾杯のあと歓談となった。

安西祐一郎部長の塾長就任のお祝いとして、芦

澤会長から記念品のジャージほかの贈呈があった。引き続き、慶應義塾大学稲崎一郎理工学部長からお祝いがあり万歳を三唱した。

この後、安西塾長に代わって新現役部長に着任した小茂鳥潤部長の挨拶、来賓チームを代表してBYB 荒川徹副会長のスピーチ、宇宙開発事業団宇宙飛行士星出彰彦(KER 50期)のスピーチと続いた。

会も終わりに近づいた頃、歌「はたぐも」を斉唱し、エールをあげた。創部50年を記念し「50年誌「はたぐも」と「部歌「はたぐも」CD」を作成し会員に配布した。部50年誌は17C吉野栄司が中心になって編集していたが2000年に逝去したため、同期の17E大江富夫が吉野の遺志を引き継ぎ完成し発行した。「はたぐも」CDは理工学部同窓会ならびに、電気化学教室、山岳部、ラグビー部の各OB会が協力し、マンドリンクラブOG会(LMC)と楽友会OBの支援を得て制作された。

### 安西塾長の還暦

2006年5月安西塾長の還暦を祝う会と記念試合がそれぞれ日吉ファカルティラウンジ、下田グラウンドで催された。

### おめでた続く

2008年6月1日の早朝、矢上キャンパスで星出彰彦君搭乗のスペースシャトル打ち上げパブリックビューが開催された。打ち上げ予定時間が日本時間6月1日午前6時頃と早朝であったが、前



関東理工系大学リーグ創設 50 周年  
記念交流試合 300 人超の集合写真  
2010 年 5 月

夜からの泊り込み組を含み大勢の関係者が大画面に映し出される映像に心躍らせながら打ち上げを見守った。ラグビー部、理工体など多数が参加した。

この年の OB 総会は、2008 年 7 月 27 日、秩父宮ラグビー場クラブハウスで安西会長の紫綬褒章受章祝賀会を併催しての開催となった。この受賞は安西会長の情報学への貢献が認められ 2008 年春の褒章となったものである。

宇宙から帰還したばかりの星出彰彦宇宙飛行士も駆けつけ、にぎやかに受賞を祝った。

### 関東理工系大学リーグ創設 50 周年 記念交流試合

2010 年 5 月、300 名を超える参加者をむかえ、秩父宮ラグビー場で理工系リーグ創設 50 周年交流試合が行われた。

1960 年、慶應義塾大学工学部、千葉工業大学、東京農工大学、東京理科大学、電気通信大学、日本大学理工学部の 6 校で第 1 回大会を戦った関東理工系大学リーグは 2010 年に 50 周年を迎えた。

加入や脱退など、さまざまな経緯があったが、継続して加盟しているのは、慶應義塾大学理工学部、東京理科大学、電気通信大学、日本大学桜工(理工学部)の 4 校であり、この 4 校を中心にして企画された。

### 創立 60 周年

2010 年 8 月 22 日高輪プリンスホテルで理工学

部ラグビー部創部 60 周年記念パーティーが開催され、KER の飛躍を祈り OB・OG、現役のほか関東理工系リーグからも来賓の出席を頂戴し、60 周年を盛大に祝った。

### 星出宇宙飛行士再び宇宙へ!

2012 年 7 月 15 日、矢上キャンパス創想館地下 2 階のマルチメディアルームで、星出彰彦君のソユーズ搭乗に合わせ、ライブ中継のパブリックビューイングが行われた。ラグビー部からも安西会長はじめ多数の OB・OG が参加した。

### 現役の活動状況

2009 年度より大村亮准教授(機械工学科)が部長に就任した。

### 年間の主なスケジュール

火曜日、水曜日、土曜日、日曜日が練習日で主に午後の時間帯になっている。春の日曜日は関東理工系大学リーグ戦、秋の日曜日は関東学生クラブ選手権大会のリーグ戦が組まれる。

毎年 8 月下旬から約 1 週間、長野県上田市の菅平で合宿を実施。普段交流のない関東や関西の各大学クラブチームと合同練習や練習試合を行う。合宿期間の後半で、関東ラグビー協会主催の東西交流試合(大学クラブチームのリーグ戦)に参加し、そこでの戦績を得て合宿を総括し、帰京する。

グラウンドのほか、部室、シャワー、トレーニングルームなど施設も充実している。



スクラム 2012 年夏

一方、矢上移転を契機とし、理工学部へ入学したラグビー経験者が体育会や他の塾内クラブへ入部することが多くなった。このため理工学部体育会ラグビー部に入部する理工学部生に経験者が少なくなってきた。

## 対外試合

1960年から、春は関東ラグビーフットボール協会の支援で参加チームが自主運営する「関東理工系大学リーグ」に参加している。

また2000年からは、毎年秋に関東ラグビー協会が主催する関東ラグビークラブチーム選手権(サンケイスポーツ後援)に参加している。この大会には関東の大学公認クラブチームが約30チーム参加している。KERは第8回大会から参加していて、同選手権での勝利を最大のターゲットとしている。関東ラグビークラブチーム選手権の過去の戦績は以下のとおり。

①第8回(2000年) 3部トーナメントで2回戦敗退

②第9回(2001年) 3部トーナメントで1回戦敗退

③第10回(2002年) 3部Dブロック1位、順位トーナメント1回戦で敗退

④第11回(2003年) 3部Bブロック3位

⑤第12回(2004年) 3部Cブロック1位、順位トーナメントで敗退。2部昇格ならず

⑥第13回(2005年) 3部2位、2部入替戦で敗退

⑦第14回(2006年) 3部5位、3部入替戦で敗退、4部へ転落

⑧第15回(2007年) 4部Aブロック2位、順位トーナメント1回戦で敗退、昇格ならず

⑨第16回(2008年) 4部Cブロック4位

⑩第17回(2009年) 4部Aブロック2位

⑪第18回(2010年) 4部Bブロック2位

⑫第19回(2011年) 4部リーグ準優勝、3部入替戦勝利→翌期より3部

⑬第20回(2012年) 3部リーグ準優勝、機構再編成のため1部入替戦へ出場したが敗退した。



合宿中の試合風景 2012年夏

2013年は2部に出場。

## OB会の活動

4月 現役チームの新入部員獲得活動を支援

5~6月 現役チームのコーチング(練習支援、練習相手)。

6~7月 OB-現役交流試合と合同の春期納会  
ならびにOB総会

9~11月 現役チーム夏期合宿のコーチング(練習支援、練習相手)

12月 OB-現役交流試合と合同の秋期納会

3月 新OB・OG歓迎会

このほか先年行われた「塾の150年記念募金事業」等、塾からの協力要請では別途体制を整え活動している。

## 終わりに

理工学部体育会ラグビー部は、再興から半世紀を超え、人であれば還暦を迎える年も過ぎた。この間、時代背景や環境も大きく変わってきた。変わったのは過去ばかりではない。現在も変わりつつあるし、将来も変遷を繰り返すのであろう。

しかし再興から1世紀を迎える2050年にも後輩たちがラグビーというゲームで矢上のグラウンドを駆け回っていることを信じて筆を置きたい。

歴代役職一覧

期	主将	副将	主務	副主務	期	主将	副将	主務	副主務
10	M 有坂富三	—	—	—	46	M 広瀬剛	経 鈴木聡	C 渋谷徹	S 中川章裕
11	M 森岡久男	—	—	—	47	M 能登悟郎	E 高橋政彦 C 青木健一	A 藤田明久	山 井上貴子 山 青山浩子
12	C 石谷欣二	—	—	—	48	M 米窪淳二	M 水谷元彦 商 鷹木秀樹	E 大澤順一郎	M 宇野佳和
13	C 土井康巧	C 吉野努	C 由良純三	—	49	I 清水衛	M 秋地聡 S 増田豪	A 米倉智	—
14	M 臼井豊	—	M 高羅健	—	50	C 半田北斗	商 小林吉行	A 福川典広	M 後藤誠一
15	M 成願宏	—	M 山村隆男	—	51	A 大野朝之	商 鈴木智雄 商 藤原祥一 A 小島敏裕	M 佐々木啓介	M 内村孝
16	M 芦澤直仁	—	M 足立廉	—	52	A 中山智浩	A 結城愛作	M 神田基	M 福島亮介
17	E 成願恒雄	M 山地康博	C 吉野栄司	—	53	経 今村直城	M 今村憲	M 金森徹	法 安川力
18	M 浜野栄三	M 赤羽友治	C 加治木淳	C 広瀬信昭	54	E 植田正弥	法 須田伊知郎	E 神武直彦	M 新井信吾
19	C 植本邦彦	C 大塚寛	M 安並久男	—	55	E 余語徹郎	経 脇山章太	E 磯哲男	C 土屋朋也
20	E 米山治	M 芦澤直矩	E 三浦太朗	—	56	経 田辺隆通	M 栗林朗 S 原田知和	C 林諭	経 加来秀郎
21	C 田原戦太郎	A 神田順	I 宇山捷利	—	57	法 木村臣宏	M 林将人	M 久田直樹	C 南橋克也
22	A 高柳則男	I 小林健二	M 藤本元	E 岩城邦明	58	商 遠藤義之	M 熊本忠明 文 石井康博	法 有田秀生	商 志村将光
23	M 小松紘一	E 斉藤一紀	M 国広重男	—	59	C 浅井義成	B 山田康行	経 堀内隆明	文 久森啓至
24	M 徳永尚彦	M 小島義紀	A 太田忠夫	—	60	法 園田俊一	法 水口敏秀	経 小畑直人	商 谷川輝仁
25	C 永野幹晴	C 日下雄行	C 周坊清彦	—	61	I 西山真生	商 引田晴理	—	—
26	M 岩田健	M 南里敬太	A 浜口活朗	—	62	商 栗原史嵩	経 泉悠介	SD 鍋木直人	—
27	A 渡辺紘彦	M 北川正文	C 安西祐一郎	I 岩崎昶	63	経 泉悠介	M 山木直	SD 鍋木直人	—
28	M 石川純	C 岸本吉則	M 安東和民	—	64	文 中村二郎	S 長沼慶幸 商 明間紀之	法 竹謙一	経 太田雄大
29	M 高島洋一	A 得能健二	M 阪田良	M 小西寛直	65	経 渡邊裕太	I 塩野淳仁	経 浪川洗輔	—
30	M 星田慎太郎	C 山田雅行	I 氏家一行	A 倉持陽一	66	商 福本貴之	商 真島義行	理 吉田卓司	—
31	I 早野博史	M 宮久正憲	M 石川潔	—	67	政 西方亮祐	文 萬所徹也	法 奥村洋平	C 永井泰右
32	M 田子督治	E 千田豊	M 米内隆政	M 飯野吉嗣	68	法 山形耕太郎	経 山本浩平	商 池田智哉	—
33	A 須田昭夫	M 盛田昭男	A 桜井忠雄	—	69	商 蔵谷将大	J 田添崇士	J 田添崇士	商 渡邊一輝
34	A 野辺地和郎	A 砂山正光	E 海老沢義人	—	70	法 中村晃人	S 上野充貴	M 山崎竜郎	—
35	A 北田康	A 坂田秀磨	M 吉野正信	—	71	経 吉田賢輔	経 戸田尚之	理 小林周	—
36	A 石川宣司	C 佐川史明	M 森啓	—	72	法 太田栄作	商 穴澤佳大	理 秋庭徳隆	—
37	M 松岡清明	C 若林利明	C 坂本好伸	—					
38	A 石井宣明	M 早田隆昭	I 佐俣洋和	—					
39	M 立野裕之	S 山本聡	I 佐俣洋和	跡 甘利容子					
40	A 津崎美樹	M 石浦聡	M 酒井政秀	—					
41	A 本沢豊	C 梶山隆一郎	E 西澤通格	—					
42	M 池端哲生	文 沢田大八郎	M 有田隆徳	E 福井乙人					
43	S 黒田耕平(山本)	E 木村弘道	M 高橋知男	—					
44	M 山本昌弘	A 敷野嘉朗	C 塩沢肇	—					
45	M 龍沢正	M 横原大	M 月岡誠	経 辻市英幸					

M: 機械工学科, E: 電気工学科, 電子工学科, C: 応用化学科, I: 計測工学科, 物理情報工学科, A: 管理工学科, S: 数理工学科, 数理科学科, B: 物理学科, K: 化学科,  
SD: システムデザイン工学科, J: 情報工学科, 理: 理工学部1年, 文: 文学部, 経: 経済学部, 法: 法学部法律学科, 政: 法学部政治学科, 商: 商学部, 山: 山脇学園, 跡: 跡見学園